

可部南認定こども園（仮称）の整備について

1 認定こども園設置の考え方等

(1) 設置の考え方について

本市においては、少子化の進展により幼児教育・保育全体の需要が減少に転じることが見込まれる中で持続可能な提供体制を構築していくため、令和2年3月に「広島市幼児教育・保育ビジョン」を策定し、公立園と私立園それぞれの特性を踏まえた役割分担を行い、公立園は、私立園の取組支援や、私立園では提供が難しいものの公益性の観点から実施すべき部分を担うこととしました。

こうした考え方の下、令和3年3月に「広島市幼児教育・保育ビジョン実施方針」を策定し、幼児教育・保育の質の向上を図るとともに、医療的ケア児の受入れなど公立園が担うべき役割を果たしていくための拠点として、幼稚園と保育園の両方の機能を持つ公立の認定こども園を原則として各区に1園設置することとし、安佐北区においては、落合東幼稚園と可部東保育園を統合して可部南認定こども園（仮称）を設置することとしました。

なお、今年度、落合東幼稚園の4歳児の入園希望がなかったため、来年度の園児募集は行わず、在園児（5歳児）が卒園する今年度末をもって閉園する予定となりましたが、幼児教育・保育の質の向上を図るという役割を持つ拠点園として、予定通り認定こども園を設置する予定です。

※ 認定こども園：教育・保育を一体的に行う施設で、幼稚園と保育所の両方の良さを併せ持っている施設（こども家庭庁作成資料より抜粋）

(2) 認定こども園の幼児教育・保育の内容について

現在、可部東保育園と落合東幼稚園がこれまで培ってきた幼児教育・保育を認定こども園に引き継いでいけるよう、可部南認定こども園（仮称）において育てたいこども像や地域との連携などの幼児教育・保育の具体的な内容について、こども未来局、教育委員会、可部東保育園、落合東幼稚園の職員等による検討を進めており、落合東幼稚園の閉園後も、他の公立幼稚園の協力を得ながら検討を進めていきます。

(3) 可部南認定こども園（仮称）の定員について

可部南認定こども園（仮称）の定員について、保育園部分に係る定員は、統合前の可部東保育園の在園児数を基本とし、幼稚園部分に係る定員は、公立・私立を問わず、保育園が認定こども園になる場合、その上限は全体で計10人となっていることから、この範囲で検討しており、令和7年秋頃に決定する予定です。

参考：可部東保育園の在園児数（令和6年7月現在）

3歳未満児	3歳以上児	合計
31人	73人	104人

2 可部南認定こども園（仮称）の施設の概要

- (1) 施設種別 認定こども園
- (2) 建設場所 安佐北区可部南二丁目（旧安佐市民病院南館跡地の南側部分）
- (3) 敷地面積 3, 597 m²
- (4) 延床面積 1, 260 m²（RC造2階建て、一部1階建て）
- (5) 施設内容

分類	室・設備など	面積など	備考
教育・保育の提供に用いる諸室など	保育室（6室）		市の条例に定める基準等に基づき整備
	0歳児クラス	約25 m ²	
	1歳児クラス	約45 m ²	
	2歳児クラス	約45 m ²	
	3歳児クラス	約75 m ²	
	4歳児クラス	約75 m ²	
	5歳児クラス	約75 m ²	
	遊戯室	約120 m ²	
	調理室	約65 m ²	
	保健室	約5 m ²	
	屋外遊技場（園庭）	約1,200 m ²	
施設機能を確保するための諸室など	子育て支援室	約30 m ²	地域の未就園児とその保護者の利用やユニバーサルデザインを考慮して整備
	子育て相談室	約5 m ²	
	備蓄倉庫	約30 m ²	
	バリアフリースイレ	2か所	
	エレベーター	1基	
	駐車場	11台分	

3 地域からの要望への対応等について

昨年度、可部南学区町内会自治会連絡協議会様からいただいた外構整備及び落ち葉対策についての要望に関しては、以下のとおり対応します。

(1) 外構整備について

認定こども園予定地については、コンクリート擁壁のクラック（ひび割れ）への対応として予定地内の擁壁を改修する工事を行うことから、これに併せて、予定地沿いの側溝（ともに東側の部分）へのグレーチング設置を行います。

(2) 落ち葉対策について

認定こども園予定地内の樹木は抜根しますが、園の環境を園児にふさわしいものとするため、改めて植栽を整備するよう考えています。植栽の整備に当たっては、可能な限り近隣の住宅敷地等に落ち葉が落ちないように樹種を整備し、また、植栽の配置についても配慮します。

可部南認定こども園（仮称）の整備等に係るスケジュール





